

TAKE NINAGAWA

バイオグラフィ

大竹伸朗

Shinro Ohtake

1955年東京生まれ

1980 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科卒業

主な個展

- 2019 「ビル景 1978-2019」, 熊本市現代美術館, 熊本; 水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城 (開催予定)
- 2016 「Shinro Ohtake: Paper - Sight」, シンガポール・タイラー・プリント・インスティテュート (STPI), シンガポール
「時憶」, Take Ninagawa, 東京
「SHOW-CASE project No. 3」, 慶應義塾大学 三田キャンパス, 東京
- 2014 「大竹伸朗」, パラソルユニット現代美術財団, ロンドン
「既憶景」, 宮浦ギャラリー六区, 直島, 香川 (主催: 公益財団法人福武財団)
- 2013 「'00 - '12」, Take Ninagawa, 東京
「大竹伸朗: 憶速」, 高松市美術館, 香川
「大竹伸朗展: ニューニュー」, 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 香川
「焼憶展」, INAXライブミュージアム 世界のタイル博物館, 愛知
- 2012 「大竹伸朗」, アートゾンジェ・センター, ソウル
- 2011 「大竹伸朗展」, 佐賀町アーカイブ, 東京
- 2010 「#65 | 2005 - 2010」, Take Ninagawa, 東京
「#65」, Take Ninagawa, 東京
- 2009 「貼貼貼/Shell & Occupy 4」, Take Ninagawa, 東京
- 2008 「貼貼貼/Shell & Occupy 3」, Take Ninagawa, 東京
「貼貼/Shell & Occupy 2」, Take Ninagawa, 東京
「貼/Shell & Occupy」, Take Ninagawa, 東京
- 2007 「大竹伸朗と別海 2007年」, ウルリー牧場, 北海道
「大竹伸朗 路上のニュー宇宙」, 広島市現代美術館(広島), 福岡市美術館(福岡)- 2007
- 2006 「ヤバな午後」, NADiff, 東京
「大竹伸朗と別海」, ウルリー牧場, 北海道
「大竹伸朗 全景1955-2006」, 東京都現代美術館, 東京
「旅景 TABI-KEI」, ベイスギャラリー, 東京
- 2005 「ON PAPER」, ベイスギャラリー, 東京
- 2004 「UK77 写真、絵、貼1977-78年」, ベイスギャラリー, 東京
- 2002 「BLDG. 大竹伸朗新作展」, ベイスギャラリー, 東京
「Man Is Basically Good 大竹伸朗個展1982-2000」, ベネッセハウス直島コンテンポラリーアート
ミュージアム, 香川
- 2001 「大竹伸朗デジタル・ワークス 鼠景」, エプソン・イメージング・ギャラリー エプサイト(東京),
NADiff(東京)

TAKE NINAGAWA

- 2000 「10.08. 武満徹『SONGS』+大竹伸朗」, NADiff, 東京
「ダブ景 大竹伸朗」, KPOキリンプラザ, 大阪
「大竹伸朗展」, ベイスギャラリー, 東京
「大竹伸朗 既景 1978-2000」, セゾンアートプログラム・ギャラリー, 東京
- 1999 「ZYAPAIORAMA 大竹伸朗展」, パルコギャラリー, 東京
- 1998 「大竹伸朗展」, コモンズ・ギャラリー, ハワイ大学マノア校美術学部, ホノルル
「ネガな夜 大竹伸朗展」, 西武アート・フォーラム, 西武百貨店池袋店, 東京
「新津-あいまいで私が日本 大竹伸朗展」, 新津市美術館, 新潟
- 1997 「大竹伸朗 イン・プリント」, NADiff Gallery, 東京
「大竹伸朗 プリンティング/ペインティング」, CCGA現代グラフィックアートセンター, 福島
- 1995 「大竹伸朗 網膜」, 高島屋コンテンポラリー・アートスペース, 東京
「大竹伸朗展 X+Y=LOVE」, ストアデイズ, 東京
- 1994 「大竹伸朗の新作版画展 カスバの男 モロッコ日記」, 西武アート・フォーラム, 東京
- 1993 「大竹伸朗 網膜」, ギャラリー・ところ, 東京
- 1991 「大竹伸朗の仕事 ECHOS 55-91」, 西武アート・フォーラム, 西武百貨店池袋店(東京), なんばCITYホール(大阪)- 1991
「大竹伸朗の仕事 ECHOS 89+91」, ザ・コンテンポラリー・アートギャラリー, 西武百貨店池袋店, 東京
「大竹伸朗 ECHOS 1-100」, アールヴィヴアン, 東京
「大竹伸朗の仕事 ECHOS 71-91」, ギャラリー・ところ, 東京
- 1990 「大竹伸朗 Shipyard Works 1990」, 寺田倉庫 Space T33, 東京
「大竹伸朗 Recent Works 1988-1990」, ギャラリー・ところ, 東京
- 1989 「大竹伸朗 America」, アールヴィヴアン, 東京
- 1988 「大竹伸朗 ドリームス展」, ギャラリー・ダン, 大阪
「CANVASISM-夢と細胞 大竹伸朗新作展」, 西武アート・フォーラム, 西武百貨店池袋店、東京
- 1987 「大竹伸朗展 1984-1987」, 佐賀町エキジビット・スペース, 東京
「大竹伸朗展 EZMD & ETCHINGS」, ギャラリー・ダン, 大阪
「〈倫敦/香港〉1980」, ギャラリー・ダン, 大阪
「ロンドン/ホンコン 1980 PART II」, みゆき画廊, 東京
- 1986 「ロンドン/ホンコン 1980」, ヒルサイド・ギャラリー, 東京
- 1985 「大竹伸朗-放浪する言語/未来の日本前衛」, パラッツォ・ビアンコ, ジェノヴァ
「大竹伸朗ペインティング/カラージュ」, インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(ICA), ロンドン
- 1984 「大竹伸朗 1983-1984」, ギャラリー・ワタリ, 東京
- 1982 「大竹伸朗 個展」, ギャラリー・ワタリ, 東京

主なグループ展

- 2019 「瀬戸内国際芸術祭2019」, 豊島, 香川 (開催予定)
「百年の編み手たち -流動する日本の近現代美術-」, 東京都現代美術館, 東京 (開催予定)
「ニュー・ペインティングの時代」, 高知県立美術館, 高知
- 2018 「バブルラップ:「もの派」があって、その後のアートムーブメントはいきなり「スーパーフラット」になっちゃうのだが、その間、つまりバブルの頃って、まだネーミングされてなくて、其処を「バブルラップ」って呼称するといろいろしくりくると思います。特に陶芸の世界も合体するとわかりやすいので、その辺を村上隆のコレクションを展示したりして考察します。」, 熊本市現代美術館, 熊本
「The 9th Asia Pacific Triennial of Contemporary Art」, クイーンズランド州立美術館 / ギャラリー・オブ・モダン・アート, ブリスベン
「Sharjapan: The Poetics of Space」, Al Hamriyah Studios, シャルジャ (curated by 長谷川祐子)

TAKE NINAGAWA

- 「EPOCH」, ROH Projects, ジャカルタ
「Flash 1977/1989」, ハラミュージアム アーク, 群馬
「起点としての80年代」, 静岡市美術館(静岡), 高松市美術館(香川), 金沢21世紀美術館(石川) - 2019
「181枚の記憶—高松市美術館特別展の歩み—」, 高松市美術館, 香川
「10th Anniversary」, Take Ninagawa, 東京
「21世紀の美術 タグチ・アートコレクション展 アンディ・ウォーホルから奈良美智まで」, 平塚市美術館, 神奈川
「モダンアート再訪 - ダリ, ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展」, 横須賀美術館(神奈川), 広島市現代美術館(広島), 埼玉県立近代美術館(埼玉), 鳥取県立博物館(鳥取) - 2018
「開館40周年記念展 トラベラー: まだ見ぬ地を踏むために」, 国立国際美術館, 大阪
2017 「In Focus: Contemporary Japan」, ミネアポリス美術館, ミネソタ
「日本の絵本100年の歩み」, ちひろ美術館, 東京
「Japanorama: New Vision on Art since 1970」, ポンピドゥー・センター・メッス (curated by 長谷川祐子)
2016 「谷川俊太郎展・本当の事を云おうか」, 大岡信ことば館, 静岡
「所蔵作品展: MOMATコレクション」, 国立近代美術館, 東京
「The Keeper」, ニューミュージアム, ニューヨーク
「瀬戸内国際芸術祭2016」, 豊島, 香川
「Strange and Familiar: Britain as Revealed by International Photographers」, マンチェスター・アート・ギャラリー(マンチェスター), バービカン・センター(ロンドン) - 2017
2015 「AN IMPRECISE SCIENCE」, Artspace, シドニー
「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画: コレクション・ビカミング」, 東京都現代美術館, 東京
2014 「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画: クロニクル1995—」, 東京都現代美術館, 東京
「ヨコハマトリエンナーレ2014: 華氏451の芸術: 世界の中心には忘却の海がある」, 新港ピア, 横浜
2013 「5th Anniversary」, Take Ninagawa, 東京
「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ: エンサイクロペディック・パレス」, ヴェネチア
「瀬戸内国際芸術祭 2013」, 女木島, 香川
「路上と観察をめぐる表現史—考現学以後」, 広島市現代美術館, 広島
2012 「ドクメンタ(13)」, カッセル
「Double Vision: Contemporary Art from Japan」, モスクワ市近代美術館(モスクワ), ハイファ美術館群(ハイファ) - 2012
2010 「光州ビエンナーレ2010: 10,000 Lives」, 光州
「これも自分と認めざるをえない」, 21_21 DESIGN SIGHT, 東京
「瀬戸内国際芸術祭 2010」, 直島, 香川
2009 「I BELIEVE: 日本の現代美術」, 富山県立近代美術館, 富山
「MOTコレクション—MOTで見る夢」, 東京都現代美術館, 東京
2006 「FIX・MIX・MAX! 現代アートのフロントライン(最前線)」, 北海道立近代美術館, 北海道
「水はつねに複数で流れる 東野芳明を偲ぶオマージュ展」, ギャラリーTOM, 東京
「直島スタンダード2」, 地中美術館, 直島, 香川
「アートシンフォニー 20世紀美術の響き」, 富山県立近代美術館, 富山
「武満徹: Visions in Time」, 東京オペラシティアートギャラリー, 東京
「収蔵品展20 抽象の世界 色・かたち・空間: 東京オペラシティコレクションより」, 東京オペラシティアートギャラリー, 東京
2005 「decade CCGAと6人の作家たち」, CCGA現代グラフィックアーツセンター, 福島

TAKE NINAGAWA

- 2004 「美しき旅 人生をめぐって」, 富山県立近代美術館, 富山
「再考: 近代日本の絵画 - 美意識の形成と展開・第2部」, 東京都現代美術館, 東京
- 2003 「第41回岡山市芸術祭公式プログラム LOVE PLANET: 愛の惑星」, 旧出石小学校, 岡山
「絵とものがたり すてきなえほん・絵本の教育的効果と芸術性」, 姫路市立美術館, 兵庫
- 2002 「収蔵品展2002-I 新収蔵作品展+現代絵画入門」, 広島市現代美術館, 広島
「ラブ・アンド/オア・テラー ブック・アーツ」, アリゾナ大学美術館, ツーソン
「本と美術 20世紀の挿絵本からアーティスト・ブックまで」, 徳島県立近代美術館, 徳島
- 2001 「竹尾ペーパーショウ2002 PLEASE: あなたから、よい、たより」, スパイラル, 東京
「本という美術 大正期の装幀から現代のオブジェまで」, うわら美術館, 埼玉
「あるコレクターがみた戦後日本美術」, 群馬県立近代美術館(群馬), 愛媛県美術館(愛媛)
「スタンダード展」, 直島コンテンポラリーアートミュージアム, 香川
「大竹伸朗とディーター・ロート 見る・読む・触れるアーティスト・ブック」, うらわ美術館ギャラリーD, 埼玉
- 1999 「アート・ジャングル こどもとたんけん」, 富山県立近代美術館, 富山
「日本ゼロ年」, 水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城
「時代の体温 ART/DOMESTIC」, 世田谷美術館, 東京
「現代美術のレッスンI」, 秋田市立千秋美術館, 秋田
- 1998 「コレクションズ コントラディクションズ: モダン・アンド・コンテンポラリー・アート・フロム・アトランタ・コレクション」, マイケルC.カルロス博物館, エモリー大学, アトランタ
「都築響一 大竹伸朗 青山秘宝館」, NADiff Gallery, 東京
- 1997年 「原美術館コレクション展 人間模様」, ハラ ミュージアム アーク, 群馬
- 1996年 「20世紀美術の変容」, セゾン現代美術館, 長野
「高知県立美術館 コレクション展 ニュー・ペインティング・コレクションを中心に」, 高知県立美術館, 高知
- 1996 「パイプライン 宇和島⇄大阪 Puzzle Punks 大竹伸朗+ヤマタカ・アイ」,
ザ・ギンザ・アートスペース, 東京
- 1995 「日本のブックデザイン 1946-95」, ギンザ・グラフィック・ギャラリー, 東京
- 1994 「600ソウル国際美術展」, 国立現代美術館, ソウル
「三木富雄/田中信太郎/大竹伸朗」, ギャラリーとこ, 東京
「ヒロシマ 21世紀へのメッセージ展」, 熊本県立美術館(熊本), 大丸ミュージアム梅田(大阪),
郡山市立美術館(福島), 広島市現代美術館(広島)
「断面1979-1994 原美術館15周年記念展」, ハラ ミュージアム アーク, 群馬
「アウト・オブ・バウンズ 海景の中の現代美術展」,
ベネッセハウス直島 コンテンポラリーアートミュージアム, 香川
「アート・アゲインスト・エイズ・ジャパン アーティストの眼」, 横浜ランドマークホール, 神奈川
「セゾン現代美術コレクション 戦後日本の絵画: 新収蔵品を中心に」, セゾン現代美術, 長野
「VOCA '94 現代美術の展望: 新しい平面の作家たち」, 上野の森美術館, 東京
- 1993 「親と子でみる現代美術: まなぶ あそぶ 美術の世界」, 富山県立近代美術館, 富山
「日本現代彫刻の系譜 収蔵作品による」, 富山県立近代美術館, 富山
「第1回アジア・パシフィック現代美術トリエンナーレ」, クイーンズランド州立美術館, ブリスベン
「近代日本美術の流れと油井一ニコレクション」, 佐久市立近代美術館, 長野
- 1992 「MASK 顔・表情」, ギャラリー・TOM, 東京
「三木富雄/田中信太郎/大竹伸朗」, ギャラリー・ルイ・カレ, パリ
- 1991 「Japan Art Today 北欧4カ国巡回記念 現代日本美術の多様展」, セゾン現代美術館, 長野
「キャビネット・オブ・サイエンス」, マルメ・クンストフェライン(マルメ), ホワイトチャペル・ギャラリー(ロンドン),
テート・ギャラリー(リバプール)- 1992

TAKE NINAGAWA

- 「20世紀・日本の絵画: Modernism and beyond」, ふくやま美術館, 広島
「ハイブリッド・ガーデン 現代美術6人展」, ビギ・アート・スペース, 京都
「アムネスティ『フリーダム '90s』ポスター展」, 横浜美術館, 神奈川
「野生の復権 開館5周年記念展: コレクションからのメッセージ」, 世田谷美術館, 東京
1990 「Japan Art Today 現代日本美術の多様展」, レイキャビック市立美術館(レイキャビック),
ヘルシンキ市立美術館(ヘルシンキ), シャーロットテンボルグ美術展会場(コペンハーゲン),
ストックホルム文化会館(ストックホルム)- 1991
「幻想の力: 日本の近・現代美術から」, 宮城県美術館, 宮城
「80年代の日本現代美術」, ブレゲンツ・フェストシュピール(ブレゲンツ), ウィーン近代美術館(ウィーン),
ボン・クンストフェライン(ボン), フランクフルト・クンストフェライン(フランクフルト)- 1991
「ファルマコン '90 幕張メッセ現代の美術展」, 幕張メッセ, 千葉
「世界の飢えを考えよう 国際美術展」, 世田谷美術館, 東京
「コレクション展」, 原美術館, 東京
「ニュー・ネセシティ 第1回タイン国際現代美術展」, ニューキャッスル
「作法の遊戯: 90年春・美術の現在」, 水戸芸術館現代美術ギャラリー, 茨城
1989 「アゲインスト・ネイチャー: 80年代の日本現代美術」, ICA名古屋(愛知),
ヒューストン現代美術館(ヒューストン), ニューヨーク大学グレイアートギャラリー(ニューヨーク),
シンシナティ現代美術センター(シンシナティ), シアトル美術館(シアトル),
MITリスト視覚芸術センター・ボストン銀行 アート・ギャラリー(ボストン), アクロン美術館(アクロン),
サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ)- 1991
1987 「アーティスト50人に描かれた現代女性50人の肖像展」, ザ・ギンザ・アートスペース, 東京
1985 「Artists' Books: Japan 日本のアーティストが創った“本”の展覧会」,
フランクリン・ファーマス, ニューヨーク
1984 「第20回今日の作家 '84展 [面]をめぐる表現の現在」, 横浜市民ギャラリー, 神奈川
1983 「アンタイトルド」, ローレンス・オリヴァー・ギャラリー, フィラデルフィア
1981 「ART POP Japan-Tokyo Today」, インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(ICA), ロンドン
1980 「チャイナタウン・ファンタジア展」, ラフォーレ・プラザ, ラフォーレ原宿, 東京
1979 「θ (シータ)」, ヴィレッジ・ギャラリー, 東京

主なライブ・パフォーマンス

- 1996 「デストロイ・オール・モンスターズ日本ツアー '96」, ラフォーレミュージアム原宿, 東京
-パズルパンクスの初ライブパフォーマンス, 遠隔操作エレキ・ギター「ダブ平」を初演奏
1995 ヤマタカ・アイとノイズユニット「パズルパンクス」結成, 初CDブック「パイプライン」(UCA)発表
1985 「ライブ・ワンズ! 1985」, ラッセル・ミルズとのサウンド・ユニット「オンリー・コネクト」によるサウンド・
パフォーマンス, オックスフォード近代美術館, ロンドン
1980 「クルバ・カポル」, B・C・ギルバート, グレアム・ルイス, ラッセル・ミルズとのサウンド・
パフォーマンス, ノートルダム・ホール, ロンドン
1978 音響実験グループ「JUKE/19.」活動開始, 81年までにLP, EP5枚制作

主なパブリック・ワーク

- 2019 「覗き岩」, 宇和島市学習交流センター・パフィオうわじま, 愛媛(設置予定)
2016 「針工場」, 公益財団法人福武財団, 豊島, 香川
2013 「女根/めこん」, 公益財団法人福武財団, 女木島, 香川
2009 「直島銭湯 I♥湯」, 公益財団法人福武財団, 直島, 香川
2006 「はいしゃ〈舌上夢/ボッコン覗〉」, 公益財団法人福武財団, 直島, 香川

TAKE NINAGAWA

- 2000 「北の空に浮かぶカタチ」, 札幌市生涯学習センター・ちえりあ, 北海道
1994 「シップヤード・ワークス」シリーズ: 「切断された船首」, 「船尾と穴」, 「船底と穴」, 「隔壁 I-VII」,
「箱の上の隔壁 I-II」, 株式会社ベネッセホールディングス, 直島, 香川

レジデンシー

- 2015 シンガポール・タイラー・プリント・インスティテュート(STPI), シンガポール
1995 アトランタ・オリンピック委員会(ACOG)及びオリンピック文化機関の招聘によりアトランタに滞在
1989 アメリカ・インフォメーション・エージェンシー(USIA)及びアーティストコロニー基金の招聘により
米国に滞在

受賞

- 2014 芸術選奨文部科学大臣賞 美術部門

主なパブリックコレクション

ニューヨーク近代美術館
ミネアポリス美術館
ダラス現代美術館
ヴィクトリア & アルバート博物館
M+
クイーンズランド州立美術館 / ギャラリー・オブ・モダン・アート
東京国立近代美術館
東京都現代美術館
世田谷美術館
富山県立近代美術館
愛媛県美術館
高知県立美術館
駒ヶ根高原美術館
佐久市立近代美術館
広島市現代美術館
ふくやま美術館
福岡市美術館
新津市美術館
高松市美術館
ベネッセアートサイト直島
彫刻の森美術館
東京オペラシティ アートギャラリー
原美術館
セゾン現代美術館
CCGA現代グラフィックアートセンター
公益財団法人福武財団
札幌市生涯学習総合センター・ちえりあ
宇和島市学習交流センター・パフィオうわじま

TAKE NINAGAWA

主な出版物

- 2013 「ビ」 新潮社, 東京
- 2010 「NOTES 1985-1987」 ジェイ・ブイ・ディー, 東京
「直島銭湯 I♥湯」 青幻社, 東京
- 2008 「見えない音、聴こえない絵」 新潮社, 東京
- 2007 「大竹伸朗 全景」 大竹伸朗全景展実行委員会, 東京
「大竹伸朗展 - 路上のニュー宇宙」, 大竹伸朗展実行委員会, 福岡
- 2006 「ネオンと絵具箱」 月曜社, 東京
- 2005 「既にそこにあるもの」 筑摩書房, 東京
- 2004 「カスバの男 モロッコ旅日記」 集英社, 東京
「UK77」 月曜社, 東京
- 2002 「テレピン月日」 晶文社, 東京
「18」 青山出版社, 東京
- 1999 「ZYAPAIORAMA 日本景」 朝日新聞社, 東京
- 1997 「YMCB」 トランスアート, 東京
- 1993 「ジャリおじさん」 福音館書店, 東京
- 1991 「SO:大竹伸朗の仕事 1955-91」 UCA宇和島現代美術, 東京
- 1986 初画集「<倫敦／香港>1980」 用美社, 東京